

# アカウンティング【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 /NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ACC501B	◎	○	○
科目名	アカウンティング		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※マネジメント研究科以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

アカウンティングは、ビジネス世界における、外部ステークホルダーに対する経営情報伝達のための共通言語である。本講座にあつてはビジネススクールの履修者に期待される水準の「財務会計」（すなわち、利害関係者に向けた外部報告会計）の基礎知識を学ぶ機会が与えられる。教室にては先ず大学学部における財務諸表論と重なりあう内容を確認してゆくが、その後は財務諸表分析、さらには企業のIRディスクロージャー戦略に至る視点に絡む考察を加えてゆく。講義コンテンツにあつては、ある程度（英文）カタカナの会計用語のリテラシーが得られるよう、デザインされている（但し、受講される上では英語力は問わない）。本講座の到達目標は、受講後、修了者が、企業の財務報告の意義と関わる制度に関心を持ち、たとえば日経新聞の証券市場欄等の記事情報にヨリ関心を持ち、財務諸表に示された主要な数値の意味を解釈、分析できるようにすることである。  
また、学期中に1回、学外からもゲストを招聘し、財務会計分野の視角を広げる機会を得ることがある（過年度は京都大学教授藤井秀樹先生に御出講願った）。

## 教科書 /Textbooks

任 章 著『アカウンティングと財務諸表分析』（その年度の最新版）  
（初回の教室にて無償配布。アドバンスト科目たる財務諸表分析でも本テキストを継続使用するので大事に使ってください）

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

参考図書の購入は義務ではなく、下記はあくまで例示の程度です。会計分野の程よい入門書はたくさんあります。  
・ ロバート・アンソニー / レスリー・パールマン 著 西山茂監訳 (2007年) 『アンソニー会計学入門』 東洋経済新報社 (いわゆる英文会計に馴染むために推薦する基本書。ただし購入は任意であり、授業にては全く使用しない。)  
・ 簿記の学習をされたことがない人は、日商簿記検定3級程度の参考書 (たくさん出ている本のうちから、よろしければご自分で適宜選んで) をご自身で学習してみてください。簿記の知識は本講座受講の前提ではありませんが、関わる知識があれば、この分野で用いられる考え方につき「反射神経」のようなものが磨かれるでしょう。  
・ ○任 章著 (2017) 『監査と哲学 - 会計プロフェッションの懐疑心 - 』 同文館出版 (会計学で用いる基礎概念と用語の定義、会計監査諸基準の内容、さらには会計監査の歴史について知りたい方には「参考」になるとと思います)。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主として以下のコンテンツを、各々モジュールとして積み上げて行く (但し、プレゼンテーションの時間をとる必要もあり、講義順や講義内容は大きく変わる)。

- ①オリエンテーション：本講座の領域と目的、課題について。  
【オリエンテーション】
- ②企業とアカウンティング：会計の役割と職能について (なぜ今、あえて「会計」を考えなければならないのか?)。  
【会計の役割と職能】
- ③会計原則 (GAAP) とは何か：特に米国基準 (US-GAAP) と国際基準 (IFRS) について。  
【GAAP】
- ④バランスシートの機能について。  
【B/S】
- ⑤P/Lの機能について。  
【P/L】
- ⑥キャッシュフロー計算書の作成方法とその機能について。  
【キャッシュフロー】
- ⑦簿記とアカウンティング・サイクルの一巡について。  
【アカウンティング・サイクル】
- ⑧決算修正：アクルーアル処理とその会計倫理上の限界について。  
【アクルーアル】 【アグレッシブ・アカウンティング】
- ⑨ディスクロージャー：その制度と脚注情報について。

# アカウンティング【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 【ディスクロージャー】

⑩情報信頼性の担保方法：監査報告書について。

### 【監査】

⑪財務諸表分析の基礎的アプローチ方法について。

### 【財務諸表分析】

⑫年次報告と投資家向広報（IR）について。

### 【アニュアルレポート】

⑬隣接領域と意思決定会計への展望について。

### 【意思決定】

⑭MBA アカウンティングのWrap-Up.

### 【MBA】

⑮アドバンスト財務会計への展望

### 【財務会計】

...以上のモジュールを、受講者の意欲とニーズを量りつつ、ウェイト配分を微調整しながら講義する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートそのものの質（15%程度）、プレゼンテーションの積極性やディスカッションに際しての貢献度（15%程度）、ミニテストの成績（2回実施で70%程度）、を適宜ウェイト付けし、総合的に（100%にして）判断します（成績評価上はどうしても相対評価が基本となります）。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、（次回の講義でカバーする範囲をその前の回に示しますので）予めバラバラとテキストをめくってみて、イメージを掴む程度で結構です。事後学習としては、授業中、理解できなかった箇所を教員に（教室内で、あるいはメール等により）質問し、教員からのアドバイスや返答を得て、その後理解を定着させること。さらに、二度実施予定のミニテストに備えて、関わる用語と概念、計算方法等につき、習熟を重ねておくことが望まれます。その他、授業外学習としては、やはり、日本経済新聞の金融関係のコラム記事等に日頃より関心を持ち、親しむことが効果的と思われます。

## 履修上の注意 /Remarks

学部生が学ぶ簿記論の授業等とはアプローチが全く異なります。特に簿記会計の知識経験がなくとも、授業内容それ自体は十分に理解できると思います。英語の専門用語を多く引用しますが、カタカナで理解してもらえますから英語力も不問です。その他、必要なことはその都度、教室にて事前に連絡します。

配布プリント等の教材はきちんとファイルされ、各回、過去のものも忘れず教室に持参してきてください。それと、原則、隔週での一日二コマ授業です。理解促進の為に遅刻してもできるだけ欠席回は少なくするのがよいでしょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は一方通行の講義をするのではなく、インタラクティブにコミュニケーションをとりたいと考えています。そのためにも、履修者がテーマを選んで自発的にプレゼンテーションをする機会を設けたいと考えています。教室にてはぜひ積極性を発揮してください。

## キーワード /Keywords

上記の中でも特に、簿記、GAAP、IFRS、B/S、P/L、キャッシュフロー計算書、財務諸表監査、他。